

麓山の杜 みどり通信

発行 21世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
連絡先 〒963-8876 郡山市麓山1-16-17
TEL 924-2194 FAX 924-2195



園内の紅葉が
綺麗でした！

ガーデニングワホイト

【水やり】11月は平年に比べると暖かい日が続きました。降水量もあり土は湿った状態が続いています。しかし、これから冬にかけては乾燥が続く場合があります。冬だからといっても植物は水を必要としますので、暖かい日の午前中にあげるようにします。植え替えた場合や鉢植えは、特に水やりが大切です。乾燥防止に腐葉土などでマルチング（地面に敷いておく）をするといいですね。

【肥料】多くの樹種は、まだこの時期は必要ありません。あげてしまうといつまでも成長し続け、寒さの害を受ける場合があります。

【病害虫防除】マツ類につくマツカレハ（マツケムシ）は、樹皮や混み合っている枝や葉に隠れて越冬しています。アブラムシ、カイガラムシは、この季節でも活動しています。幹などについている時は、ブラシなどでこすり取りその後に殺虫剤を散布します。特に松についているアブラムシは、枝にびっしりとかたまっています。病害虫のついた落ち葉などは、綺麗に掃き集め来年に持ち越さないようにします。冬越しの棲み処を無くすことが、来年の発生を少なくする事になります。秋遅くなるとマツの葉が変色する事例を近年多く見かけます。スギ葉枯病や赤斑葉枯れ病などと病名は特定できませんが、環境の悪化がマツを弱らせてこの様な状態になっている

お知らせ

記念樹の樹木交付とみどり講習会はこれからの季節、植栽に適さないことから、実施いたしません。

次回の交付は、平成28年3月6日（日）です。



冬の寒さがやってきます



ようです。公園内のマツも例外ではありません。幹や枝についているウメノキゴケを知っていますか？灰色したコケがはがれにくくなって、ツツジやマツやサクランボなどについています。このコケ自体には害がありませんが、樹木の成長が悪くなるとつくようです。水をかけて柔らかく浮かせるようにしてとるようにします。まずは、[肥培管理](#)をして成長を妨げないようにします。（※作物を育成するとき、施肥・水やり・中耕・土寄せ・害虫の駆除などを一連の作業として管理すること）

【剪定】常緑広葉樹は、これからの時期はなるべく控えます。剪定すると、芽が出ない・弱い芽しか吹かないため冬越しで弱ってしまうなど来年の芽吹きが悪くなります。マツ類は、今年に伸びた枝は切らないようにしますが、古葉を落して枝を透かす時期となります。ヤニの出が少なくなるので、樹勢を弱める事がなく綺麗に仕上げ冬越しをします。雪による枝折れも防ぎます。松の手入れは晩秋の季語になっています。落葉樹は、これからが適期になります。太い枝を切るなどの強めな剪定が可能になります。切り口は癒合剤を塗って保護します。カエデ類は、なるべく早く剪定をします。花木は、来年の花芽がありますので、注意をして剪定をします。

【植え替え】常緑広葉樹は、剪定作業と同じく来春まで待ちます。常緑針葉樹は、霜が何度か降りてからが

可能です。落葉樹は、これからが適期となりますが、カエデ類は剪定作業と同じく早めに済ませます。植え替えた場合は寒さや乾燥から守る為に腐葉土や敷きわらをしておきます。

【防寒】寒さに弱い植物は、防寒作業が必要で鉢植えであれば暖かい場所に取り込みます。また、二重鉢にして「根」の凍結を防ぎます。雪の重みで枝が折れそうな時は、縄で結んだりして枝が折れないようにします。寒風や霜に弱い植物は覆いをします。

その時大事なのは、冬でも葉に日光が当たるようにすることです。不織布を巻いてみてください。(野菜のベタ掛けシートなどの商品名で販売されています)葉には光が90パーセントほど届き、それでいて寒さをさえぎる効果が高いですよ。オリーブや柑橘類を植えている方が郡山近郊でも多く見かけます。その場合はやってみる価値が大いにあります。暖かいところに住んでいる方にはわからないかもしれませんが、防寒はとても必要な作業です。



【平成27年10月18日開催 みどり講習会より】

◎ 植物にとって良い土壌とは

保肥力や肥効がないとせっかくあげた肥料成分が流れて植物が吸収できなくなったりします。これは、土壌の水分状態、土性、土壌にいる微生物などにより左右されます。土壌は固くなると根の伸長が阻害され、透水・通気性など植物の生育を妨げます。それを改良する為には、腐葉土、堆肥、ゼオライト、パーライトなどを混ぜて改良し、柔らかな土壌にします。土壌改良剤は、一度入れれば済む訳ではありません。毎年、植物を植えるはじめるときに入れていく必要があります。土壌は、作っていくものです。



【街で見かけた植物】

◎ クロガネモチ (モチノキ科モチノキ属)

常緑広葉樹で15mほどにも育つ高木です。モチノキよりも葉の色が濃く簡単に見分けられます。また、実のつき方も違います。雌雄異株で秋からこのような赤い実をいっぱいつけるのは、雌木だけです。しかし、近くに雄木がないと実のつきが悪いです。野鳥に見つけれないと春先まで楽しめます。萌芽力が強く剪定にも耐えますので、刈り込んで形を整え庭木としても利用されます。寒さに弱い為に関東以西が適地ですが、郡山市内でも育てる事は可能です。ただし、寒風が直接に強く当たる場所は避けます。



**** みどりのつぶやき ****

植物は、自分の子孫を残すために今の環境が適さないとすると、風や虫たちの力を借りて今より最適な環境に「種子」を飛ばし生長します。また、どんな災害が起きようとも「桜梅桃李」に生長します。私達大人は勿論、子供達もどんな環境でも「あるがままに・・・」生きていきたいものです。

